

第2回

監修・執筆 本村凌二

オリエントとギリシア

今回学ぶこと

およそ5千年前の文明の誕生は文字ができたことによる。メソポタミアで^{くさびがた}楔形文字が、エジプトでヒエログリフが工夫されて、情報が記録され、歴史が刻まれるようになった。さらに、アルファベットが登場し、30字足らずの文字で表記できるようになったことは人類の一大進歩であった。最初のアルファベットはフェニキア文字であったが、西方に伝わりギリシア文字が工夫された。やがて学問・思想・文化の諸相が書き記され、それらは多くの人々が共有するものとなった。

調べておこう・覚えておこう

- 大英博物館所蔵のロゼッタ・ストーンについて、その発見やヒエログリフの解読の過程を調べてみよう。
- 最初にアルファベットであるフェニキア文字には母音がなかった。母音がなく表記するとどんなことが起きるか、体験してみよう。
- 叙事詩『イリアス』『オデュッセイア』をまとめたホメロスは口承詩として伝えたのであり、それらが書き記されたのは200年後の出来事であった。口伝と文字について考えてみよう。

楔形文字とヒエログリフ

紀元前4千年紀、メソポタミアでは印章が使われ、絵文字が記されたが、やがて粘土板に楔形文字が刻まれるようになった。最初はシュメール語を記録するものだったが、やがてアッカド語でも記されるようになった。

その多くは会計記録などであったが、洪水説話をふくむ『ギルガメッシュ叙事詩』の物語や歴代の王の事績なども書かれるようになった。エジプトでもヒエログリフが生まれ、王や貴人の事績が刻まれ、『死者の書』などの宗教文書も書き残されるようになった。

このような文字の出現とともに、都市を中心に文明が生まれ、人類の歴史が後世にも伝えられるようになった。



人類最大の発明 ～アルファベット～

紀元前2千年紀半ばになると、メソポタミアとエジプトに挟まれた地域で、少ない文字で表記しようとする人々が登場する。

とりわけヒエログリフの形を元にして二十数文字で表現するアルファベットがフェニキア人の手で開発された。この出来事のもつ意味は重要であり、アルファベットは人類史上最大の発明であると唱える学者もいる。これによって、多くの人々が文字を学ぶことができるようになったが、現実には読み書きできる人々はまだ限られていた。主に商業交易や会計記録に用いられたにすぎなかったと考えられる。

やがてフェニキア文字は西方にも受容され、ギリシア文字として拡がっていった。ギリシア文字にはあらたに母音が加わり、より物事を記録しやすいものになった。

ソクラテスの逆説

ギリシア文字の普及は学問・思想ばかりでなく、叙事詩や悲劇などの物語をも記録することに貢献するようになる。だが、ソクラテスに見られるように文字を用いることに反対する知識人もいた。文字を使えば、人間の記憶力ばかりか思考力も劣化することを心配したからである。こうしてソクラテスは一文字も書き記さなかったが、彼の思想や行動が今日にも伝わるのは、プラトンをはじめとする弟子たちの手でソクラテスの事績が書き残されたからである。これは歴史の皮肉な逆説とも言えるのではないだろうか。

ヨーロッパ文化の土台ともいえるギリシア文明のなかには東方のオリエン트의文明の影響を受けたものも少なくないが、アルファベットはその代表的な痕跡である。

